

日 時 平成 20 年 11 月 7 日（金）午後 6 時 00 分から 8 時 00 分

会 場 宮前区役所 5 階会議室

参加者 永野部会長、川西委員、前田委員、高木委員、田邊委員、松井委員（以上、部会委員）
田邊企画課長、中山同主査、成沢職員（以上、事務局）
岩下研究員（コンサルタント）

議事

（１）第 1 期宮前区区民会議からの提案に対する取組状況について

資料に基づき事務局から報告があり、意見交換した。

…（途中から）

川西委員 一般市民から民生委員の補助、手伝いができるような制度をという話が以前あったと思います。また、今回民生委員が取得した情報が、地域にちゃんと活かされるのか。これが重要です。

高木委員 高齢者だけということが明らかになることが安全面で問題になることがあります。車でもあのマーク（高齢運転者標識）をつけていると、高齢者だけだと狙われることがあると聞きました。

永野部会長 ご近所サークルは合計でいくつになったのかという発表があると良いと思います。

高木委員 鈴木委員の活動は NHK で今年に入ってから何回か紹介されています。

川西委員 鈴木委員の活動が掲載された本も出たので、そのコピーを配布してはどうでしょうか。

事務局 地域防災については、総務企画課ではなく、地域振興課から報告を行なう予定です。

永野部会長 地域コミュニティの「地域のたまりば」の創出は、全国的な壮年のたまり場運動を視野に入れているのでしょうか。

事務局 特に高齢者のみに対象を絞ったものではありません。

高木委員 防災では、確か次回区民会議の前日が先日行なわれた避難所運営会議の会議だったと思います。その簡単な報告があると良いと思います。

（２）各部会の審議状況について

資料に基づき部会長から報告があり、意見交換した。

ア 公園地域づくり部会 田邊部会長報告

川西委員 公園緑地管理運営協議会の所管は役所ではどこになるのでしょうか。

事務局 本庁の公園課、この地域でいえば公園事務所になり、区役所が直接タッチはしていない現状です。ただし、現在全市で 4 箇所の公園事務所を各区に配置する計画が検討されています。これが実現すれば、より区役所とは関係が近くなると思います。

高木委員 宮前区は北部公園事務所と西部公園事務所の管轄になりますが、西部公園事務所は物理的にも遠いです。公園になっていない広場等は建設センターが大体管轄していると思います。

事務局 道路残地、河川残地などのことです。

高木委員 公園事務所については将来的な話題として、行政サイドから口頭でも良いのでいれても良いのではないかと。

川西委員 「具体的な課題解決策」の欄は空欄のままよいのでしょうか。

事務局 そこはこれからの作業と考えています。

永野部会長 コーディネーターの話はどうなったのでしょうか。

川西委員 全体会での意見の欄に入っていますね。この話は解決策に関わってくるので、まだ突っ込んでいけないということだと思います。

事務局 公園緑地管理運営協議会の認知度が低いという話がありましたが、これには二つの意味があると考えています。一つは存在も知らないということ。もう一つは存在は知っているが、何をやっているのか理解していないということです。単なる公園の掃除などをする団体ではなく、コミュニティの形成などにまで関わる理念を持った組織だということを知ってもらうことが必要です。

川西委員 解決すべき課題の掲載の順番を再検討する必要があります。「利用者のマナー」の問題については、もっと下の方で良いのではないのでしょうか。また公園緑地管理運営協議会については、「組織内の人も組織の理念について充分理解していない」「組織の外の人に存在や役割が知られていない。」「協議会へ参加できていない」などの課題に分かれるのではないか。「公園に行く機会が少ない」というのも「特定の人しか公園に行かない」という課題があると思います。課題については、まとめすぎずに、もう少し細分化して記述していく方がわかりやすいと思います。

永野部会長 解決策につながりやすいような整理、まとめ方が必要だと思います。

高木委員 最終的に地域コミュニティにどう結び付けていくのか、見えません。区民会議は地域コミュニティをつくっていくしくみを提案するのだと思います。公園緑地管理協議会の運営をうまくやれという話ではないはずです。

川西委員 それは一つではあるが、それだけではありません。

永野部会長 前回の議論では公園を使う人がこう使いたいという提案の場がない。協議会の存在を知らなかったり、そういうことを言える雰囲気になかったりする。利用者が利用のルールを決められる場が必要です。例えば、幼稚園や保育園の保護者が焼き芋をしたいという発想が出た時、ただ火を使っただけではいけないと拒否するのではなく、ルールを決めればできるのではないか。そしてそういうことによって地域のコミュニティもできていくのではないかと思います。

川西委員 部会の中ではいろいろな話が出ていました。課題がもう少し細かく表現されていけば、発言もしやすくなると思います。

永野部会長 情報発信の方法、合意形成の方法などが解決策として出てくるのだと思います。

川西委員 宮前区の顔に、公園も出てくるようになると良いですね。

田邊委員 具体的な例をあげながら、解決策に結びつけるような提案ができれば良いなと考えています。

イ 宮前区の宝探し部会 ~ときめき再発見~ 高木部会長報告

高木委員 発掘した資源をどういうふう楽しんでいくか提案していくというのは新しい切り口で宮前区の特徴だと感じています。

川西委員 すごくおもしろそうな議論がされていると感じます。細かい点ですが、資料3-1と3-2で、「みたい・ききたい」などの順番が統一されていません。

事務局 資料3-2のイメージ図ですが、これはまだ部会内できちんと議論したものではありません。こうした図も用いながら、議論を進め、イメージや理念を共有していきたいと思います。

高木委員 最初のイメージはもっと平面的で、沈んで行くような誤解も受けてしまいそうでした。資源を宝物に、宝物を顔に「押し上げる」がキーワードになってきていることもあり、立体的にしてはどうかという意見がでたところです。

川西委員 資料にもありますが、顔というものはやはりいっぱいある資源の中から選ばれるものだと思います。戦略という言葉もありました。顔は、ブランドになるものだと思います。イメージ図ですが、

それぞれが次の段階にいく仕組みを提案していくのだということがわかりやすいような図になれば良いと思います。

事務局 資源と宝物と顔は別物なのではなく、資源の中に宝物となるものもあり、その中に更に顔となるものがあるという表現を考えて今の形になっています。

高木部会長 ある一つの資源や宝が顔になるのではなく、象徴的なものが顔になることもありえると考えています。その辺りはまだ部会でも充分議論しておらず、掴みきれていません。例えば最近話題の「ゆるキャラ」も資源そのものというよりは資源を象徴したものだと思います。市民アンケートで、宮前区のイメージが「よくわからない」と回答した区民の割合が最も多かったのですが、何が宮前区の宝物になるのか、誰もわかっていない現状があるのではないかと。だからこそ「押し上げていく」がキーワードにもなってきたと思います。

地域に持ち帰ると地域独自の細かい資源が出てくると思う。その元となる資料を区民会議から地域に提供したいと思っています。

(3) 第3回宮前区区民会議の議事について

(4) 区民会議フォーラムについて

資料に基づき事務局から説明があり、意見交換した。

事務局 今年度も区民会議フォーラムを開催する方向性は既に確認されていますが、宮前区のまちづくり協議会で来年2月21日(土)に「まちづくりひろば ラブみやまえ」というイベントが現在企画検討されている中で、まだ未確定の部分が多い話ですが、区民会議も何らかの形で連携・参加してはどうかという声も出始めているようです。区民会議フォーラムは、例年3月に開催しており、今年も3月の第2~4週の週末で会議室を仮抑えしてありますが、「まちづくりひろば」との関係なども含めて、今年度の区民会議フォーラムの開き方についてご意見をいただければと思います。

永野部会長 「まちづくりひろば」は昨年度まで「宮前区フォーラム」と呼ばれていたイベントで、昨年度までは市民館との共催だったのが、今年度から委託され、まちづくり協議会の主催となりました。この今回のテーマが「宮前区を紹介しよう」ということで、区民会議の宮前区の宝探し部会と共通するものがあるのではないかと、区民会議でやってくることも紹介してくれないかという打診がありました。ただまだ正式な話としてきてはおりませんし、企画が煮詰まっていない部分があると思われます。先日宝探し部会で話題があがった時は、区民会議フォーラムは区民会議フォーラムとしてやはりきちんと別日程で3月に持ち、まちづくりひろばは参加する場合も、活動の紹介や区民会議フォーラムの事前告知と考えてはどうかという意見がありました。

また別件ですが、参与との懇談という話は今年度はどうなるのでしょうか。

高木委員 選挙がどうなるのか全く見えない状態の中、年度内の開催は難しいのではないのでしょうか。

また、フォーラムの開催時期ですが、来年は3月の第3週は連休になってしまうので、2週目の14日が良いのではないかと思います。

前田委員 連休中はまちに人が少なくなり、多くの区民に参加していただくのは難しいと思います。

高木委員 まちづくり広場はプレ的に考えたほうがよいのではないかと。ここで資料を配ったり、進捗状況を張り出すくらいでよいのではないかと。

川西委員 これまでの区民会議フォーラムは一方的な報告が主になってしまい、中身に対する区民にわくわく感が与えられてきていなかったと思います。ただ今回のテーマである公園や宝物は非常に身近でおもしろいテーマだと思います。会場からもっとうまく意見や声を聞く場にしたいです。次回

の区民会議を向ヶ丘地区で開催することも同様で、区民に興味を持っていただき、どんどん話しをしてもらうようにしたいです。

高木委員 例えば公園であれば、事例発表をする。宝物もどこか小学校に投げかけておいて、途中経過でも良いので、地域で見つけた宝物の発表をしてもらう。子どもの発表なら、親が必ず来ます。そうした目に見えるための工夫が欲しいところです。

川西委員 事例発表から更に踏み込んで、例えば公園を核としたコミュニティ形成のモデルまで提示して、「実際にあなたの地域でやるとしたら、どうなると思いますか」と問いかけ、反応が見えるようなしかけをつくる。分科会形式にして、参加者にも一緒に考えもらう場にしてはどうでしょうか。とにかく区民会議の応援部隊を一般区民の中に増やして行く必要があります。

永野部会長 今回は中間発表会なので、日曜開催も検討しても良いと思います。

前田委員 学校に参加していただくのであれば、学校がやっている間（春休みに入る前）が良いと思います。

高木委員 子どもの発表ということだと先生にも来ていただけたと思います。長く拘束しないのが前提ですが。過去に既に地域の宝探しのような活動をしている例がないでしょうか。

川西委員 野川がカルタをつくって、話題になったことがあります。

松井委員 野川のカルタは非常に好評だったと聞いています。ただ、その後そのカルタがどう使われているのかがわかりません。作った当初は引っぱり風で、すぐ数が足りなくなったと聞きました。

永野部会長 それでは、3月の15日（日）に区民やこどもを巻き込んだ企画を行うということでしょうか。

一同同意。中身などについては、今後検討していくこととした。

報告

平成21年度宮前区協働推進計画（案）及び区の課題解決事業（案）について

資料5に基づいて事務局が説明し、意見交換した。

川西委員 「ねずみ、昆虫等駆除対策支援事業」の昆虫とはどんな害虫なのでしょうか。

事務局 ゴキブリからハチなどです。急激に数が増えたということではなく、元々いたものなのですが、その害を知らせるというよりは、むしろ大きな害があるような誤解を解く目的が大きいと思います。リーフレットを作成し、知識の普及、啓発を行ないます。

田邊委員 課題解決事業（案）に「商店街と連携した・・・」とありますが、宮前平駅前の施設が新しくなることについて、行政が関与することは難しいのかも知れませんが、何か活性化につながる様な施策は考えておられるのでしょうか。

事務局 今のところ、区としてどうこうということはありません。

川西委員 1・2階部分が商店、その上がマンションという計画だと聞いています。代議士の事務所ではなく、区民のたまり場とか、観光協会事務所にできないかという話は以前からありました。

事務局 使っていない時期、場所を貸していただけないかという話を区から権利者にしたこともありましたが、難しかったことがありました。

川西委員 こども支援室が各区に配置されたのは正解だったと感じています。ただ、地域振興課で全部抱えているような印象を受ける、もっと資料に掲載する担当を細分化したほうがよいのではないかと。

事務局 課の中では担当を分けています。ただ、どの区でも地域振興課はイベントものが増えていく傾向があり、一度やるとやり続けなくてはいなくなることもあり、ルーチンワークが多くなって

しまうことがあるのはこれからの課題と感じています。

永野部会長 「区境・市境を越えた安全・安心まちづくり推進事業」はどこか具体的に進んでいるところがあるのでしょうか。

事務局 隣の青葉区や高津区と情報交換をしていくと聞いています。

永野部会長 宮前区の中学校に高津区の小学校から入ってくる児童も多くいます。一緒にやりたいのにうまく連携がとれていなかったり、腕章が宮前区だけあったりするのが現状です。区 P 協と連携をうまくとってほしいと思います。

川西委員 教育委員会との連携をもう少し丁寧にやっていく必要があります。

事務局 壁画作成を宮前の中学校と高津の小学校が合同でやった例もあります。

松井委員 都市マスタープランの区別構想の作成に関わった区民から「全体的な構想も良いが、早く小地域で市民の合意でまちづくりを進められるしくみをつくりたい」との声があったと思います。スプロール化への危機感が実際に高まっている地域も多いです。まちづくり局で育成条例などの動きもあるようですが、区民が自主的にやる活動をうまく誘導して育てて行く必要があると思います。

事務局 まちづくり局系の部署が区にないというのが一つのネックにはなっていると思います。「まちづくり育成条例」が現在市で検討中であり、遅くとも年度内には中身が固まってくると思いますが、最低 3 名ぐらいから核となって、まちや一角単位でのルールづくりができるような制度ができることになりそうです。その一時的な仲介窓口は企画課になるのではと考えられています。

松井委員 制度をつくるだけではなく、それを利用するしかけ、それをこの協働事業などの形で盛り込めないでしょうか。

事務局 制度が実際にどのような内容になり、どのように運営されていくのか、まだ見えない部分がありますが、ぜひ検討したいと思います。例えばどのくらい区民のグループが出てくるのか、小さいグループが無数に対応しきれないほど出てくることも考えられます。

高木委員 松井委員の懸念はむしろ逆で、制度ができただけではグループは出てこないのではないかとということだと思います。

川西委員 このまちづくり育成条例は既に市民に広報されているのでしょうか。

事務局 パブリックコメントももうすんでいます。ただまだあまり知れていない面があります。

高木委員 ホームページや市政だよりなどにも情報が載っていたと思います。

事務局 ただ、まだ詳細な内容がどうなるのか、現実にどうつながるか、まだわかりません。

高木委員 都市計画マスタープランとはどのようにつながるのでしょうか。都市マスタープランの地区計画は全住民の合意などハードルが高く感じています。

前田委員 現実には地域の合意がなかなかとれません。

事務局 都市計画マスタープランはあくまでマスタープランで、構想であり、行政計画として抽象的にならざるを得ないという面があります。これからまちづくりをしていく上で、基本的な考え方の元となるものがマスタープランで、直接的な個別の課題につながるものとしては、区民提案制度や今回のまちづくり条例などが出てきています。

川西委員 協働推進事業について、それが区民の身近な課題の解決につながることもっと見えると良いかと常々思っています。

高木委員 人の流れ、金の流れがもっと見えると良いですね。

川西委員 例えば地域安全マップをつくる場で、ここから予算化されて出てきたものですよ。というアピールを区民にその都度しても良いのではないのでしょうか。現場でのアピールがないと区民の頭の中

で結びついていかないと思います。

松井委員 市民が提案する協働事業の募集形式を変えるという話しはどうなったのでしょうか。

事務局 「地域の課題解決に向けた事業提案制度」で行なっています。これまでは、期日を決めて応募してもらった形式でしたが、今後は適宜募集していくことになりました。提案と委託主体を別々に募集する形でも無くなり、所管課と区民が話し合いながら進めて行く、新しい協働型事業のルールに乗った形になります。

川西委員 区民会議での検討内容も例えば公園部会の検討内容が「公園いきいきガールズ」などの形で提案でき、それが事業となれば良いですね。

松井委員 使いやすいルールになったと思います。これまでは例えばまちづくり協議会で何かやろうと言っても中々形にならなかった面があります。公益的な価値が認められれば予算がつくということで非常に楽しみです。

高木委員 まちづくり活動の活性化につながると良いですね。

永野部会長 来年5月に有馬で生涯学習支援施設ができる。また、宮前区で計6ヶ所の学習視線施設ができると聴きましたが、関係はあるのでしょうか。

事務局 有馬の施設は協働推進費とは全く別で、教育委員会が独自に整備するものです。またできた施設を今後どのように連携・活用していくかというのは今後の検討課題です。

松井委員 1件あたりの予算枠はどのくらいになるのでしょうか。

事務局 区によってことなります。例えば高津区ではトータル500万、1件あたり最大150万だったようです。ただ、提案をとるのが民間業者やNPOに偏る傾向があり、今後どうしていくのかも検討事項です。

その他

第3回区民会議での会場からの意見について

高木委員 今回会場を向ヶ丘地区に移したということで、せっかくなので、会場から意見を聞く時間が持てないかと思うのですが、どうでしょうか。

松井委員 ターゲットを絞った広報も必要だと思います。黙ってチラシを配っているだけではなかなか集まらないと思います。

川西委員 通常の傍聴者へのアンケートは今回もあるのでしょうか。

事務局 実施します。広報については、基本的には地域振興課にお願いしています。

永野部会長 会議の終了後でも良いので、意見を聞く場はもちたいですね。

前田委員 最初の雰囲気づくりが重要です。あまり区民会議と関係が無い話題になったり、行政批判的になってしまっただけでは困ります。感想などをお願いしてはどうでしょうか。

討議の結果、川西副委員長が会議終了後に15分程度、マイクをもって会場から感想や意見を伺う時間を持つこととした。